「三本の矢」の強さ

～温もりに満ちた学校へ～

校長室だより　６月号
2024. 6. 26

＜不撓不屈の芦中生＞
・思いやりと温かな心
・言葉で伝え心で聴く
・自ら主体的に行動

様々な思いの中で

6月。中学校生活において、特に運動部活動にとっては大きな節目となる大会が行われる月です。加賀地区中学校体育大会兼県体予選会。通称「ブロック大会」。吹奏楽部の中部日本吹奏楽コンクール予選会も加え、この大会に向けて、各部の決意を芦城中学校全員で共有し、お互いを激励して、チーム芦城が一丸となって大会に臨みました。

真剣勝負の大会ですので、当然のことですが、結果がついてきます。そして、その結果によって、それぞれが違う立場に立たされることになるのも、毎年訪れるどうしようもない現実です。

チームや個人の目標を達成し、次のステージへの準備をする人。目標は達成できなかったが、かろうじて次のステージにつながった人。次のステージにつながらなかったが、達成感を得ることができた人。そして、目標を達成できずに悔しさを吹っ切れていない人･･･。それぞれの人が、様々な思いをもって大会後の学校生活を過ごしています。

このような時こそ、チーム芦城の真価が問われます。みんなが同じ立場で、同じ目標をもって支え合って頑張ることは、もうみなさんの中では当たり前にできることだと思います。今はそこからさらに一歩進んで、

それぞれの立場を理解し
それぞれの気持ちを思いやり
それぞれの頑張りを認め
温かな気持ちで応援し、支え合える

こんな集団になるチャンスだと私は思っています。これができれば、チーム芦城の絆はまたひと回り太く強くなります。期待しています。

戦いに臨む気持ち

本当に強いチームは、
夢を見るのではなく、
できることをやるものだ。

これは、サッカー元日本代表監督のイビチャ・オシム氏の言葉です。自分に自信がないと、人は自分の力以上の成果を願ったり、自分に都合のいいことばかりが起こることを祈ったりするものです。そして、そのことが逆に過度の緊張や弱気につながることになります。次のステージに向かっている人だけでなく、新しい目標に進み出した人にも、「大切なのは自分に自信を持てる準備をすることだ」ということを教えてくれる言葉ですね。

イビチャ・オシム
1941年5月6日生まれ
ボスニア・ヘルツェゴビナのサッカー選手出身。
2006年に日本代表監督に就任。享年80歳。